

鹿屋体育大学へようこそ！



鹿屋体育大学エンブレム

この危機的な状況で求められているのは・・・

自立

(Self-Stood)

と

自律

(Self-Directed)

そのためには・・・



情報収集 と ルールの遵守

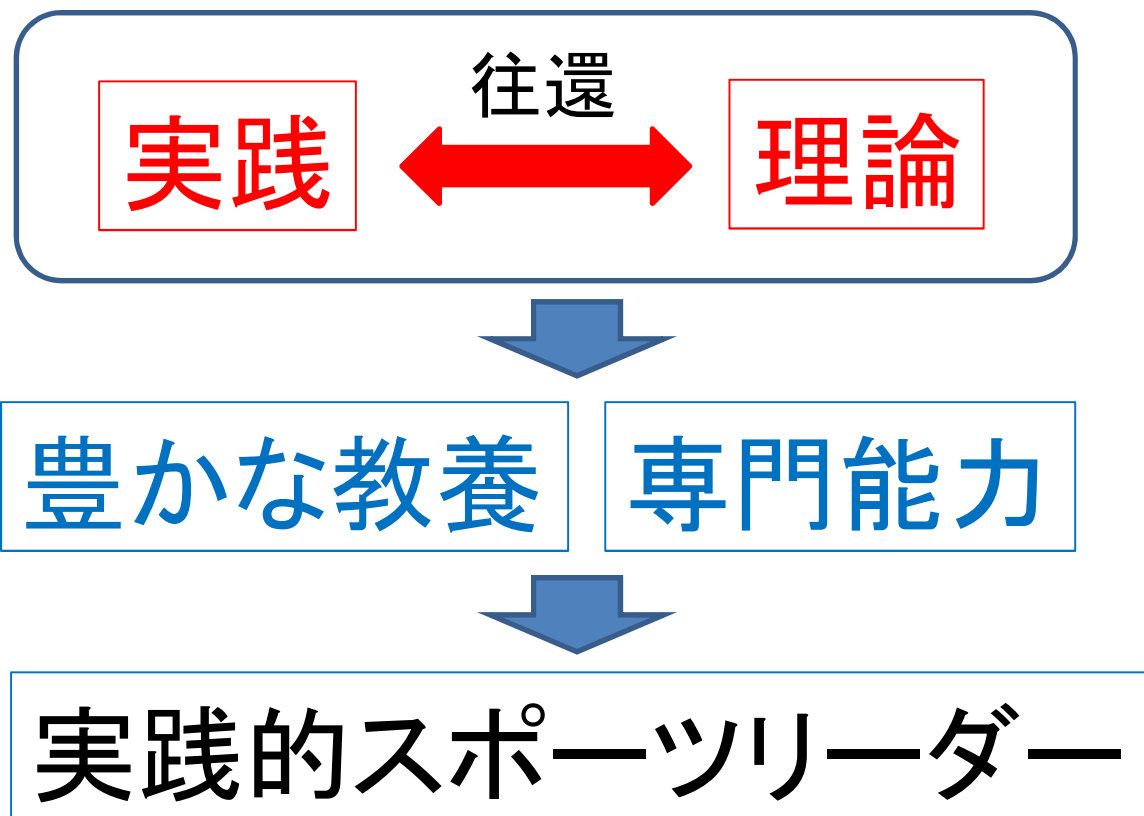


「どのように学び、身につけるか」

スポーツ・武道及び身体運動を基盤とした

理論と実践の往還による教育を通じて

豊かな教養と専門能力を授けます

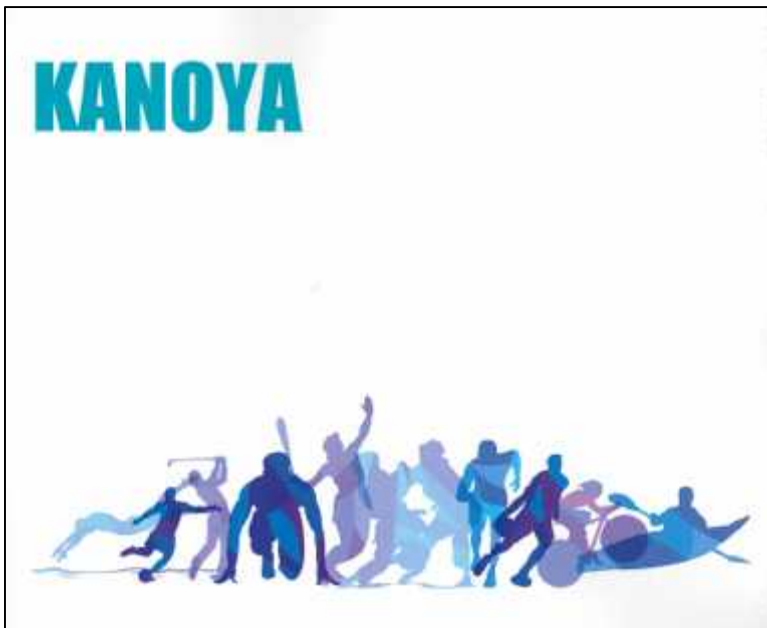


どんな学びをするかは忍者パンフでまず確認



学びや大学生生活の全体像を把握する

履修要項とは・・・大学での学修におけるルールや履修についての規則、卒業に必要な単位などを示しています



平成 26 年度以降入学生

(6) 卒業所要単位数
卒業のための最低修得単位数は、①一般科目と②キャリア形成科目で 38 単位以上、③専門科目と④専攻科目で 86 単位以上、合計で 124 単位修得することが必要な条件（要件）として定められています。さらに詳しい要件は、以下のとおりとなっています。

授業科目の区分	区分ごとの最低修得単位数（科目数）	左記以外に修得しななければならない単位数	卒業所要単位数
①一般科目	コミュニケーション科目 1.0 社会・文化・自然科目 8 総合科目 4	12	38
②キャリア形成科目	キャリアデザイン科目 4		
③専門科目	基礎科目 A（人文・社会・自然系） 1.4	アスリート・コーチング系 武道系	86
	基礎科目 B（経済・管理系） 1.0		
	応用科目 1.0		
	実践演習科目 2		
	卒業論文科目 9		
④専攻科目	ゼミナール（卒業研究） 1.4	7又は8 学生スポーツ系 1.0	86
	アスリート・コーチング系 8		
	生体スポーツ系 6		
⑤教養科目	武道系 1.8	2又は3 3 2又は3 3	86
	アスリート・コーチング系 2又は3 3		
⑥教養科目	教養 専門		

※注釈： 専攻科目は卒業必修の「スポーツ実地演習（1単位）」と「スポーツ実地演習」演習（1単位）又は「武道（2単位）」のいずれかを満たすことで最低修得単位数が異なり、（2単位又は3単位）となります。

(7) 専攻科目の系の選択
本学は教育目標の達成に向け、専攻科目では下欄に示すように3つの専攻の系を設定し、それぞれの専門に

以上を道

【専攻別】
【10以上】

スポーツ総合課程	アスリート・コーチング系 生体スポーツ系	競技スポーツ論・実習ⅠⅡ 競技スポーツ論・実習ⅢⅣ レジャー・レクリエーション論 又は 運動・用具・プログラム論 生体スポーツ論・実習ⅠⅡ 生体スポーツ論・実習ⅢⅣ	スポーツ総合課程	スポーツ総合課程
武道課程	武道系	専攻武道論・実習ⅠⅡ 専攻武道論・実習ⅢⅣ 専攻武道論・実習ⅤⅥ	武道課程	武道実習ⅤⅥ

※1) 決められた条件の中で、1つの系以上を履修できるものとする。スポーツ総合課程では2つの系より選択できます。
※2) 各専攻の必修科目を示しています。
【注】 選択した系以外の履修の進捗を → で示す。

- 17 -

履修登録等を自分で理解する

令和2年度
体育学部履修要項

鹿屋体育大学

学新番号	氏名

シラバスとは・・・授業科目の大まかな学習計画のこと



KANNOYA

令和2年度
体育学部シラバス
鹿屋体育大学

学前番号	氏名

自分で選んで、学ぶ

授業科目名	履修形態	講義・実技	授業科目区分	単位取得 内訳科目					
担当教員名	高田 吉久・金高 宏文・柳村 剛・小森 大輔		初級科目						
単位数	6 単位	履修年次	1年次	受け入れ人数					
授業の概要	本授業を通じて、陸上競技に関する専門的な運動生理学を修得していくための基礎条件となる基礎的、基本的な知識や実技（トレーニング法の習得を含む）を身につけるとともに、陸上競技のトラック種目における理論を修得する。そして、その身に付けた知識や実技を応用させることにも指導力の向上につなげるため、その内容をレポートとしてまとめるほか、グループワーク（発表含む）や他者への教授（指導）を行う。これらにより、陸上競技に関する実技力、指導者基礎力を身につけていくほか、専門的な知識・教養、課題解決力、実践的学力を養うことが期待される。								
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	DIPで目指す専門・能力	実技力、指導者基礎力 （実技指導力、課題解決力、専門的な知識・教養）	授業目標						
	■ 認知 的領域	・陸上競技のトレーニング法や審判法（ルール含む）についての基礎的な知識を理解する。	授業	テスト	レポート	発表	実務 試験	その他	割合 %
	■ 情意 的領域	・授業に主体的に参加し、課題に取り組む。 ・授業に対し、積極的・建設的な思考に立ち 新たな提案ができる。							45
■ 技能 的領域	・陸上競技のトレーニング全般についての基礎的な実技力を身につけたり、指導の出来る 様になる。							10	
■ 知識 的領域	・陸上競技のトレーニング全般についての基礎的な実技力を身につけたり、指導の出来る 様になる。							45	
成績評価の基準	3つの授業到達目標をもとに、授業、テスト、レポート、発表など成績評価方法の割合によって評価し、60点以上の者を合格とする。								
テキスト、教材 参考書	授業時間外に必要なに応じて資料等を配付する。								
履修条件・ 関連科目	国産次級陸上競技を履修していることが望ましい。	履修科目メ ッセージ含む	実際の陸上競技会を利用して事例実習を行うための、公益財団法人の施設を確保する。そのため、登録料（手数料等含む）として4000円程度必要となる。 レポート等有り。授業内容に1年間の学習が交付される。過去に陸上競技を履修し、今後も専門的に陸上競技に関わっていこうとする学生の受講を希望する。						
オフィス・アワー	高田：月曜日 14時～15時 金高：月曜日 14時～15時	研究棟8階 802教員研究室 研究棟3階 318教員研究室							
授業計画									
日	担当教員名	授業内容	授業時間外の手当等 (予習、復習、15+1等課題の指示)						
前1	柳村 剛	授業ガイダンス（授業の概要、成績評価等）、陸上競技とは（なぜ競技を行うのか）	授業の観点をまとめる。陸上競技について調べる。資料を作成する。						
前2	*	陸上競技とは（競技者としてのこれからの展望（発表））	事前に発表内容を作成し、その内容を的確に発表する。						
前3	*	陸上競技の歴史（発表）	本時のまとめとして、自身が考える大学スポーツの意義を作成する。						
前4	*	陸上競技の歴史（発表）	事前にウォールブックを読み、その内容を整理しておく。また、本時の教習としてレポートを作成を行うこと。						
前5	*	陸上競技の歴史（発表）	講習講習会への参加（土曜日）実施されるので注意すること 健康委員会（臨時のための費用（4000円程度）がかかります）						
前7	*	柔軟性のトレーニング	本時の教習としてレポートを作成を行うこと。						
前8	*	トレーニングマネジメント（自己分析～過去～：説明と作成）	課題作成を課す。そのための準備事項（予習）を行っておく。						
前9	*	トレーニングマネジメント（自己分析～過去～：発表、～現在～：説明と作成）	事前に課題の作成を行い、発表内容をまとめる。また、新たな課題作成を課す。						
前10	*	陸上競技の事例実習（実践1）	実際の競技会で審判員を行う。審判員に就任する予習等を行うこと。また、本時の教習としてレポートを作成を行うこと。						
前11	*	トレーニングマネジメント（自己分析～現在～：発表、目標設定～未来～：説明と作成）	事前に課題の作成を行い、発表内容をまとめる。また、新たな課題作成を課す。						
前12	*	トレーニングマネジメント（目標設定～未来～：発表）	事前に課題の作成を行い、発表内容をまとめる。また、新たな課題作成を課す。						

実技実習の学習課題

鹿屋体育大学・教務委員会決定(2015/5/13)

鹿屋体育大学・教務委員会決定(2015/5/13)

体育専攻学生における実践的指導力の養成を目指した『実技実習の学習課題』

本学の教育目標を手がかりにすると、関連実技科目や専攻科目等の実技実習で学ぶ学習課題は、以下のようなものが挙げられます。

1. 運動技能の習得・改善（示範・デモンストレーションカ）

指導の際にその運動種目の示範（手本）が出来る程度に「できるようになる」こと、あるいは「学習の見本となるような記録や動きが達成できること」は、学習者や選手の学習目標となる運動を伝える上で重要な役割を果たします。

また、実技実習を通して、なかなか「できない」ことから「できるようになる」ことは、生徒や選手を指導する際に、出来ない生徒の気持ちを理解（共感）し、動きのコツ・カン、指導のポイントを深めるのに非常に役立ちます。ですから、運動技能の習得あるいは改善には一生懸命挑戦してください。

なお、学校体育の教師（保健体育科教育法）の場合、下図のように、運動の領域毎に指導内容の具体例が示されています。従って、それを示範し、生徒全員ができるよう指導することが必要です。例えばゴール型の球技（バスケットボールなど）の場合、中学一年生は「守備者がいない位置でのシュート」のように、ディフェンスがいないクリアな状況でシュートを打てるようにするための技術を指導します。サッカーなどでは、トラップをしてからのキック、ダイレクト・キック、インサイド・キックやアウトサイド・キックなどのボールのとらえ方や体の向け方、全身の使い方などが考えられます。実際には1時間で一つの技術を指導する程度ですが、各段階で示範できることが期待されます。

	小学校5・6年	中学校1・2年	中学校3年・高校1学年次	高校その次の年次以降
ボール操作	・パス受けからのシュートへのパス・ドリブルでのキープ	・守備者がいない位置でのシュート ・フリーの味方へのパス ・ドリブルでのキープ ・パスやドリブルによるボールキープ	・守備者が守りにくいシュート ・ゴール内へのシュート ・味方が操作しやすいパス ・目的の味方へ近いキープ	・守備者のタイミングをはずし、守備者がいないところをわらってシュート ・守備者の少ないゴールエリアに向かってトライ ・味方が作り出した空間にパス ・ゴールに動かしてボールをコントロールして運ぶ動き ・強弱と相手の動きを察しながら、自分の得意なドリブルキープ ・シュートを打たれない空間にボールをクリア
ボール操作の応用（ボールのコントロール）	・フリーの位置でのシュート ・運球しやすい場所への移動 ・シュートコースに立つ	・ボールとゴールの間をボールポジション ・ゴール前への動き ・ゴール前への移動 ・ボール保持者のマーク	・ゴールから運ぶ動き ・パス後の次の必要となる動き ・ボール保持者の進行方向から運ぶ動き ・ボールとゴールの間でのディフェンス ・ゴール前の空いている場所のカー	・相手陣地の侵入しやすい移動 ・空を飛び越す動き ・空を飛び越す動き ・チームの形態に応じて、相手のボールを奪ったの動き ・攻撃者となるためのカバー ・ボールを運ぶ守備者の動き

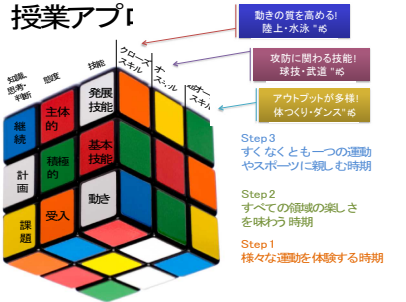
2. 運動技能等を診断・評価する能力（診断・評価力）

生徒や選手の運動技能の状況を、実際の動きや会話から把握できることは、個人にあった適切な指導の手順を考える第一のステップとなります。「どんな技能を現状で身につけており（どんな技能レベルであるか、習得途中か・習熟途中か）、どんなことが原因で、技能の向上を阻んでいるか」をある程度推察できないといけません。

こうした診断・評価が出来るためには、技能レベルに応じてどんな動きのタイプがあり、何が不足して次のレベルに行けないのかについて知ることが重要となります。ですから、実習中の動きの観察やそれに関わる議論は大切になります。

なお、学校体育の教師（保健体育科教育法）の場合、意欲的でない生徒も授業を受けるという想定があります。従って、アセスメント（診断的評価）については、技能レベルの把握の他、生徒のモチベーション、経験、集団の様相、発達段階等の視点で、授業設計段階で位置づけています（生徒の自己効力感、有能感の保証・・・好きになる、楽しくなる指導なども評価することになります）。

技能については、「手だて」という項目で形成的評価を授業途中で計画的に行い、できない生徒をできるようにすることの重要性の視点で、知識の再確認（感覚表現、比喩表現による指導言語のストック



や教材、教具、場の工夫など）の想定を考えさせます。前述の図のように領域の特性と発達段階によっても指導アプローチが異なるので、その上で技能の指導が中心か、関わり合いのグループづくりが大切か、戦術的理解が大切かなどを踏まえて指導を検討することが重要になります。

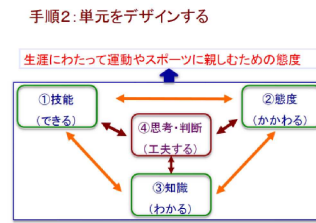
3. 運動指導に必要な教材間の関係についての把握（処方・教材力化）

実際の指導では、生徒や選手の運動技能を診断・評価した後、目標とする運動に向かって、生徒や選手が「わかるような気がする」「できそうな気がする」そして「できる」といった過程を効果的に展開できるように教材を系統的に配置し、そこで生徒や選手へ適切にアドバイスできるかが重要となります。このことは、どれだけ生徒（選手）と生徒（選手）のからだ（動き）の間での積極的な対話を発生させられるか、橋渡しが出来るかといったこととなります。

例えば、クラウチングスタートの授業で「地面をしっかり押して走る」ことを伝えたい場合、生徒がそのことを「わかり」「出来るような気がする」「できる」には、一つの方法としてスクラムマシン押しから始めて、タイヤ引きダッシュ、クラウチングスタートという順序で教材を配置する、といったことを考えることです。

つまり、こうした教材間の関係を把握するためには、「運動種目や教材同士が、どれほど似ているか」といったことを的確に把握することが重要になります。実習で展開される学習手順の意味、あるいは「何が似ているか」を授業後、再考・省察（レポート）することが、よりいっそうの教材間の意味の理解につながるでしょう。

なお、学校体育の教師（保健体育科教育法）の場合、①技能、②態度、③知識、④思考・判断の関係をバランスよく指導することが重要になります。その上で、教材の簡易化、ねらいに応じた簡易化の視点で実際に使う教材を考えることとなります。



4. 指導時における安全で、効果的な実技実習が行える運営・管理能力の習得（クライシスマネジメント・リスクマネジメント力）

運動の指導場面では、自然環境の急激な変化や災害の発生、運動自体が必然的に持つ危険性、生徒や選手が技能の未熟さから引き起こされる怪我、さらに路面が滑りやすいことで起こる事故等、様々な場面に危険が散在しています。学習者や選手が安全で、安心して学習が行える環境を整えることは、効果的な指導を行う上で非常に重要となります。

例えば、走幅跳の授業で、跳躍後に砂場を整地し、踏み切り位置が滑りやすいかを確認すること、それを生徒や選手に行わせることを知らずして、危険からの回避はできないのです。実習で展開される教員の安全配慮に対する行動を注意して観ているとよく分かるでしょう。また、万が一の環境の変化に対する事前想定、事故直後の処置、事故発生後の対処方法についてもよく理解しておくことによいでしょう。

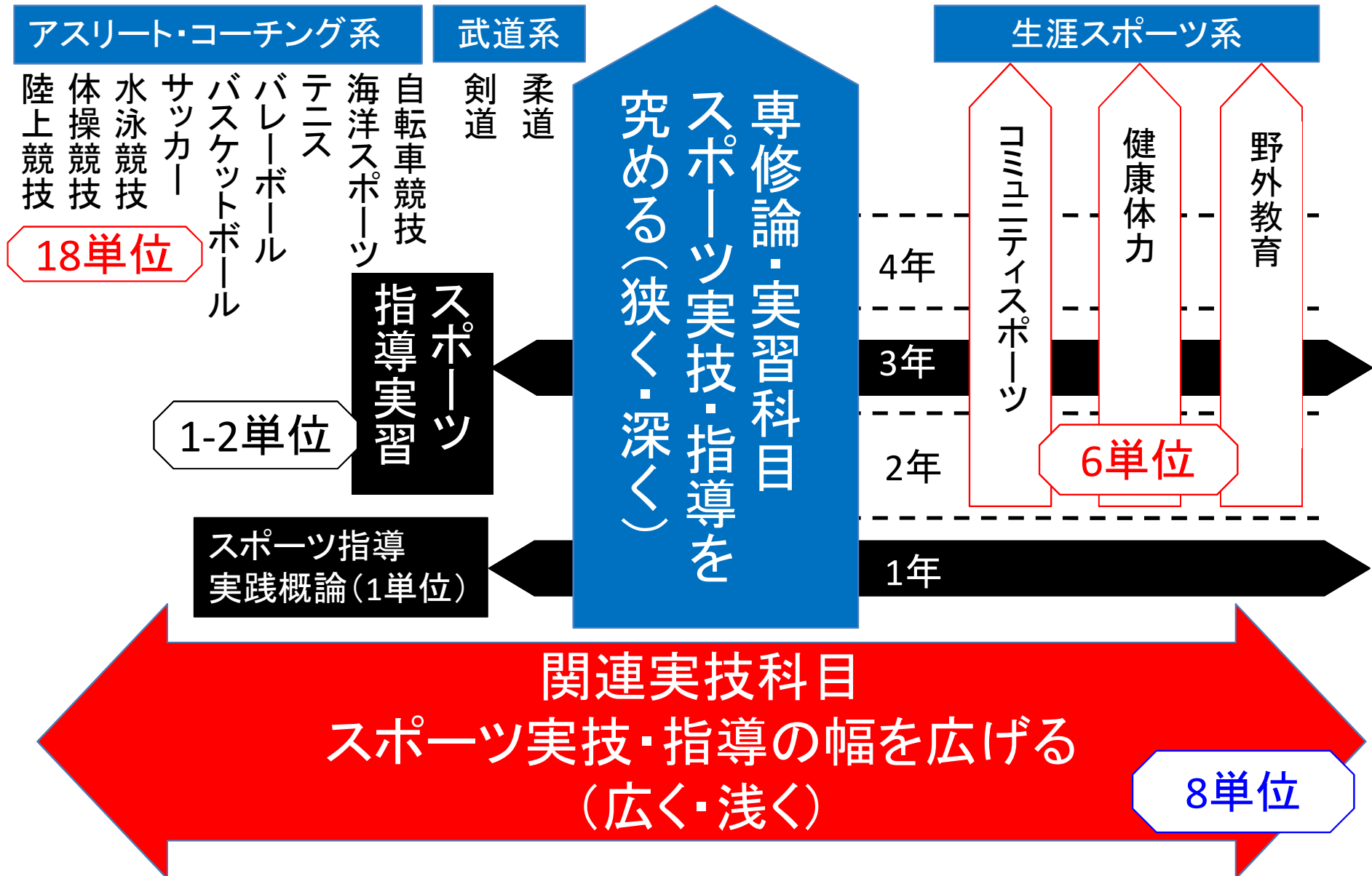
5. 運動種目の発生から現在に至るまでに関するルール・記録等に関する人文・社会的な知識の獲得（スポーツの文化的享受力）

例えば、ラグビーはフットボールより発展し、ラグビーのゲームの終わりを知らせる「ノーサイド」の笛とは、お互いに敵サイドと味方サイドに分かれてゲームをしていたもの同士がゲームの終了とともに「サイド（敵味方）がなくなる」といったことを示す言葉であるとか、スポーツの多様性や文化的意義などを知っておくことは、よりスポーツの実践で必要とされる精神や行動をより意味あるものとして理解し、指導できることとなります。ですから、こうしたことを文献学習によって深めておくことが大切になります。

なお、学校体育の教師（保健体育科教育法）の場合、体育理論と各領域での知識の学習に分けられています。体育理論の指導については、別途、保健科体育科教育法Ⅲ・Ⅳ等で学ぶ必要があります。

（資料提供：金高宏文・佐藤 豊）

専修科目と関連実技科目との関係



関連実技科目における開設授業科目(種目)

選択 種目数	学年	1年次		2年次		3年次		4年次		
	1年次入学	2種目	定員	2種目	定員	2種目	定員	1種目	定員	
	3年次編入	1-2種目		2種目		(1種目)				
定時 授業	前期	柔道①	40	テニス①	48	陸上・体操・水泳	140	ゴルフ①(一部集中)	30	
		剣道①	30	ソフトボール①	50	バドミントン①	32	ダンス③	40	
		サッカー①	40	海洋スポーツ①	40	バレーボール①	40			
		バスケットボール①	40	海洋スポーツ②	40	卓球①	40			
		生涯スポーツ・レクリ エーション&ゲームズ	50	野外活動①	10	ダンス①	40			
				野外活動②	10					
				ラグビー①	45					
	後期				相撲	30				
		柔道①	40	テニス②	48	陸上・体操・水泳	140	ゴルフ②(一部集中)	30	
		剣道①	30	ソフトボール②	50	バドミントン②	32	弓道②	20	
		サッカー①	40	体カトレーニング	30	バレーボール②	40	ダンス④	40	
		バスケットボール①	40	ジョギング&ウォーキング	50	卓球②	40			
		エアロビックダンス①	50	ラグビー②	45	ダンス②	40			
		エアロビックダンス②	50	なぎなた	30					
				弓道①	20					
集中 授業	前期			夏季山岳レジャー スポーツ実習	80					
	後期			冬季山岳レジャー スポーツ実習	40					

1年生は2種目以上選択:4/6-9にWebClassで申請

情報収集は大学のHPへ、そして**課題の締切日**を守る

令和2年度4月学事日程等(1年生)について

令和2年3月31日現在

月 日	事 項	対象学年、場所	担当課等	備 考
4月1日 (水)	新入生オリエンテーション 1年生/10:00~10:30	1年生:水野講堂大ホール	教務課 ↓ 学生課	
4月6日 (月)~ 4月9日 (木)	関連実技科目履修希望調査	WebClassにて実施	関連実技科目担当教員	
4月13日 (月)	英語プレイスメントテスト 9:00~10:15、10:45~12:00、 13:30~14:45	1年次生: 院棟3階大講義室	国際交流 センター	
4月15日 (水)	小クラス懇談会 1年生/10:00~14:30	講義棟、大学院棟各教室	小クラス 担当教員	
4月16日 (木)	授業開始			
4月16日 (木)~ 4月30日 (木)	履修登録期間			

※ 健康診断は延期

相談する方法も書いてあるので確認！

あと「3密」に注意しながら、知っている人に聴いてみよう



小クラスとクラス担任

- ◆10人程度で構成される(大学1-2年次の間)
- ◆部活動を越えた仲間をつくるため
...多様な価値観を持つ仲間をつくるため
- ◆キャリアデザイン I の小クラス授業単位

- ◆クラス担任は、成績配布や欠席届、各種申請時の認証(押印)者になる
- ◆大学1-2年次、何かあったときの相談役・フォローアーになります